

令和6年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 梓の郷	代表者	豊田喜久夫	法人・事業所 の特徴	「わたしらしく、いつまでも」の法人理念を在宅介護サービスの分野においても、より実践していきたいと考えている。さんぽみちは「わたしらしい人生をいつまでもわたしらしく堂々と生きる」をモットーに、今までの人生で培ってきた「持ち味」や「力」をさんぽみちでも発揮できる支援をしていく。 「また行きたくなる、誰でも気軽に来れる場所」という総合コンセプトのもと、介護を必要としている高齢者のみならず、子ども、障がい者、地域住民誰もが、“ごちゃまぜ”に集える場所を目指している。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護さんぽみち	管理者	小林俊介		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	1人	1人	1人	0人	4人	0人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	質の向上に向け現状の課題にあった勉強会を計画的に開催する。利用者個々の固有な情報を捉え支援に役立てられるよう会議だけでなく日々共有していく。	勉強会や研修に参加できる時間や内容をもっと精査しなければならない。時間の使い方や内容の要点など計画的かつ効率的に取り組まなければならない課題がある。	自己評価を確認したが改善計画が抽象的なのもう少し具体的にしたほうが良いのでは。項目によって具体性があるものもある。具体的なほうが達成しやすいと思う。	来年度事業計画に基づき、計画が達成できるよう適宜現場や他事業所との連携、協働をしていく。必要な内部研修は定例会議とは別に時間を設け参加をし、自己のスキルアップに繋がるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	さんぽみちは利用者が落ち着く空間、外部の方から評価してもらえるような環境作りに努めていく。よりみちは地域の方の意見を汲み取り来やすい環境作りをしていく。	よりみちの運営に関しては利用者が軒並み増加傾向を辿っている。よりみちだけではなくさんぽみちの室内も視察できるような工夫が必要だった。	コミュニティスペースよりみちはいつもきれいでとても過ごしやすい環境になっている。いつも清潔感があって良い。さんぽみちの方はあまり出入りしないので分からない。	さんぽみちの環境を知ってもらえるよう、よりみちの見学に来た方や地域の方々や催しに訪れた際にはさんぽみちも見学をしてもらうようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	さんぽみちの職員が利用者とよりみちのイベントに参加できること。さんぽみちの職員が地域の方々や付き合いができるよう検討を重ねていく。	さんぽみちの現場スタッフの意識の差もある。さんぽみちとしての取り組みはあまり無い。スタッフも地域と関わることがほとんどない。	「よりみち」はかなり地域の方々に知られてきている。地域の活動や動向などによくアンテナを張っている。認知度が上がってきているので相談もしやすくなっているのではないかと。勤務の関係上一部に職員がよりみち参加の活動に携わっていると思うが、交代で行事やイベントに参加で	さんぽみちの職員がコミュニティスペースでの催しに参加できるようにさんぽみちで行う企画から参加を促し、管理者や計画作成担当者が調整できるようにスケジュール管理や配慮をすること。

			きる仕組みにすれば地域との連携に対して職員全体の意識向上につながると思う。すでに取り組んでいると思うが世代を問わず地域の方たちの居場所として活用できるような事業所になって頂けるとありがたい。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の活動、地域行事には地区の回覧や運営推進会議から情報収集をし、参加できるように図っていく。利用者が住んでいる地区の民生委員やなど関わりが持てるよう連携に努める。	利用者を地域と繋げるという取り組みはできなかった。地域住民との距離を縮めていく活動が必要。利用者を知ってもらうなど、利用者と地域に出向くことを館得ていく必要である。	梓川地区といってもそんなに行事を行っているわけではないので参加が難しいところ。よりみちでの催しでは利用者が地域の人たちと一緒に参加できていると思う。利用者の意向を確認しながら地域行事などにも参加できるようになればいいと思う。	梓川地域の活動や行事を知るべく回覧物はスタッフ全員に回覧をして知ること。散歩やドライブ、ゴミ拾いや清掃など、ご利用者と共に地域に出向く機会を設ける。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域での課題は事業所での課題と認識し、課題の程度によっては法人内でも共有し解決できるよう取り組みを行う。	運営推進会議での地域の問題や課題が見え、事業所だけでなく法人としてどう取り組んでいくのかも検討となってくる。	積極的に地域の方たちとつながりを持っていこうという姿勢が感じられる。	引き続き介護者の集いを開催する。内容としては地域の課題に向けたものや介護の悩みに関することを盛り込んだミニセミナー付きの集いを開催する。
F. 事業所の防災・災害対策	BCP をより実用的なものへと見直しをする。地域に関わる防災にも事業所として出来ることはアナウンスしていく。	地区の防災活動にも参加できず。BCPの見直しは全く出来ていない。災害があった場合にこの事業所をどう使うかとして一時避難場所として使えるのではないかの協議はしている。	地域の防災訓練参加は一緒に出ても事業所の方が大変なので特に参加をしてほしいなどの要望はない。梓川に他事業所も複数構えているので法人で何かできることを打ち出しても良いかも。	倒れたら危険な家具は固定をする。他の小北多機能の事業所の防災。災害対策も参考にする。